

## <Universal Academy の考え①>

\* 英語については、「これまでのセンター試験と民間の資格試験を併用する」。

➡ センター試験と資格試験のテストレベルの差に注意が必要。

(現行のセンター試験のレベルは CEFR でおよそ B1レベル。)

\* 2017年度現在の一部の国公立・私立大学の入試に一部の民間試験が利用されている。

➡ そのほとんどが CEFR で B2レベル以上を求めている。

➡ 2020年度以降の国公立大学の入試においても、CEFR で B2レベル以上が求められると推測できる。

・“CEFR”とは？ ➡ □ 外国語の学習・教授・評価のためのヨーロッパ言語共通参照枠

・“CBT”とは？ ➡ □ Computer Based Testing の略称で、パソコンを使って受験する。

・“iBT”とは？ ➡ □ Internet Based Testing の略称で、インターネットに接続した状態でパソコンを使って受験する。

## <Universal Academy の考え②>

\* CEFR に基づく上記の各資格試験のレベル分けには注意が必要。

・TOEIC S/W はビジネス英語を主に扱うため高校生にはやや不適。

・TOEIC S/W を除く試験は主に学術英語を扱っているが、IELTS・TOEFL iBT

・Cambridge は留学を目指す学生が求められる資格試験であり非常にレベルが高い。

・TEAP は上智大学と英検が共同で開発したものであり、テスト内容において英検(2級か準1級)との共通点、レベルの近さがある。

## <Universal Academy の考え③>

- \* 2017年度から英検が受験料を改定し、全般的に少しずつ増加した。(3級、準2級、2級にライティングが課されたことが原因か)
- \* Cambridge English・IELTS・TOEFL iBT・TOEIC S/W は海外の公的・私的教育機関が実施しているため、日本の大学入試体系の変更に伴って試験料の増減があるとは考え難い。
  - ➡ 検定料と試験レベルに基づくと、2020年度の新テスト開始時に**多くの学生が利用するであろう資格試験は英検(最低ラインとして2級)か TEAP、GTEC** であると考えられる。
  - ➡ 「高校3年生時の4月から12月までに2回しか受験できない」という条件から考えて、**高校2年生までに英検2級までを取得する、少なくとも試験に慣れておくことが大切。**

### 考察：2020年に向けて求められる英語力とは？

#### ● 「英語4技能テスト」とは？

- ➡□ 簡単に言えば、Reading・Listening・Speaking・Writing の4つの英語技能を均等に測定するためのテスト。

#### ● Speaking のテストではどのような問題が出題されるか？

- ➡□ あるテーマについての自分の意見を英語で書く、または与えられた情報の内容を英語でまとめる。

(CBT や iBT ではパソコンの画面に向かって一人で話すことを求められる。)

● Writing のテストではどのような問題が出題されるか？

⇒□ あるテーマについての自分の意見を英語で書く、または与えられた英文の内容を英語でまとめる。

● 「統合型問題(Integrated Task)」とは？

⇒□ 前述の4技能を組み合わせた問題。例えば、TEAP のライティング問題ではある文章を読んで(Reading)、その内容を英文でまとめた上で自分の意見を英語で書く(Writing)問題が出題されている。

### <Universal Academy の考え④>

- \* 国公立大学に合格するためには、「大学入学共通テスト」・「民間資格試験」・「国公立大学二次試験」の3つのテストに対応する英語力を身につけることが大切。
  - ⇒□ 高校1年生の時期から長期的な目で3つのテストに対応する英語力を身につけ始めることが必要。
  - ⇒□ 民間資格試験については高校1年生・2年生の段階でできる限りテストを受けておいて、テスト形式や雰囲気慣れておくことが大切。
- \* 英検などの永久資格を利用することで私立大学の入試でも優遇が受けられる場合もある。